

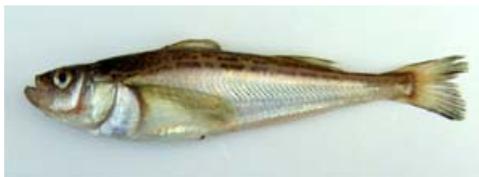
平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ハタハタ

学名 *Arctoscopus japonicus*

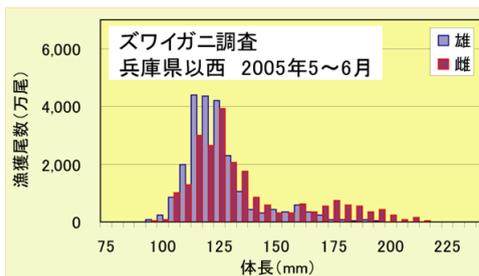
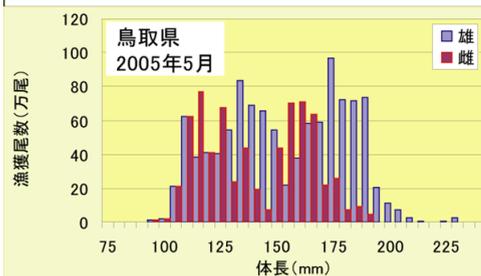
系群名 日本海西部系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 5歳
 成熟開始年齢: 1歳
 産卵期・産卵場: 12月の極短い一時期、沿岸の藻場、西区にはまとまった産卵場がない
 索餌期・索餌場: 未成魚期以降の分布と回遊に関する知見は少ない
 食性: 端脚類、オキアミ類、魚類
 捕食者: 大型魚類によって捕食されるが、詳細は不明

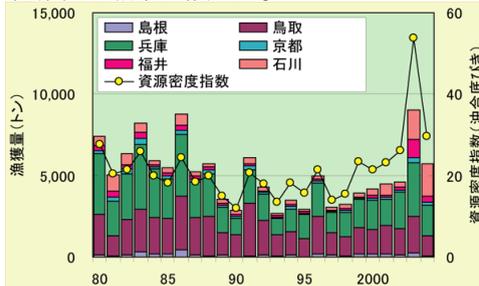
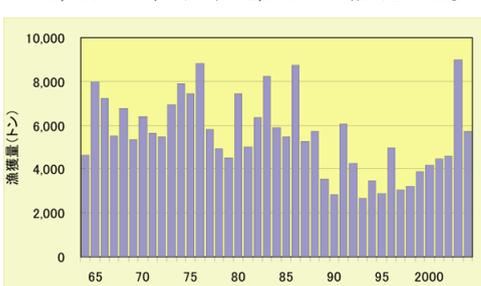


漁業の特徴

兵庫県以西では沖合底びき網、京都府以北では小型底びき網によって主に漁獲され、例年兵庫県と鳥取県の水揚げが多い。漁獲の中心は禁漁期前の4~5月、禁漁明けの9月である。11~12月の漁獲量は少ない。

漁獲の動向

当海域におけるハタハタの漁獲は、過去50年ほど5,000トン前後の水準を維持してきた。1970年代後半は韓国及び日本海北部において漁獲量が激減したが、この海域ではハタハタの市場経済的な重要性が高まったものの漁獲が大きく減少することはなかった。1990年代中頃から漁獲量は漸増傾向に転じている。2004年の西部海域全体の漁獲量は5,700トンで、石川県で2,000トンが維持されたものの他府県では前年より減少した。



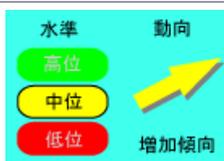
資源評価法

漁獲量の推移とともに、沖合底びき網漁業漁獲成績報告書に基づく漁場別漁獲統計を解析し1980年以降の資源密度指数*の推移を調べた。加えて、鳥取、兵庫及び福井県における漁獲物の体長組成から、近年の加入状況、漁獲物の年齢構成を考察した。

*資源密度指数: 10分マス目で設定された漁区ごとの月別CPUE(漁獲重量(kg)/ひき網回数)を一定期間(年または月)、ある海域内(中海区または小海区)で集計した値を有漁漁区数で除したもの。

資源状態

日本海西部のハタハタ資源は、漁獲量及び資源密度指数の年変動を見ると90年代初頭に比べやや高めの水準にあると考えられる。2005年現在、兵庫県以西では、2003年級(満2歳)を主体とした資源が高い水準で来遊し、さらに2004年級の加入も多かった。若狭湾以北では、2003年には及ばないものの資源水準は高い状態にある。2006年には、兵庫県以西では再び2歳魚(2004年級)以上の来遊が多くなると予測される。若狭湾以北の予想は難しいが、高めの水準から大きく変化することはないと思われる。2004年の漁獲量、資源密度指数は前年に比べると急落したが、上述のような各年級の動向から今後資



源水準が減少に向かうとは考え難い。1～2年ごとに漁獲量が増減する傾向をふまえ、現在の資源水準は中位で、動向は増加傾向と判断した。

管理方策

日本海西部のハタハタ資源は、長期的には安定した状態にあったが、特に2001年級に続き2004年級も卓越年級と推定されるなど近年は増加傾向にあると思われる。しかし、2003年以降、能登半島～若狭湾の漁獲が急激に増加し、対照的に本資源の主たる産卵場があるとされる韓国側は漁獲の低い状態が続いている。また、ハタハタは世代のサイクルが2～3年と短いことから、今後長期にわたって安定的な状態が持続するとは断定できない。漁獲努力を将来的にも増加させず、資源の動向を見極める必要がある。

| | 2006年漁獲量 | 管理基準 | F値 | 漁獲割合 |
|-----------|----------|------------------|----|------|
| ABClimit | 7,500トン | 1.14Cave3-yr | - | - |
| ABCtarget | 6,000トン | 0.8・1.14Cave3-yr | - | - |

資源評価のまとめ

- 2004年の漁獲量と資源密度指数は前年と比べて大きく低下したが、2005年初めの資源量はかなり高い水準にあった
- 2004年級の豊度が高く、2006年もこの年級が高いレベルで来遊すると考えられる

管理方策のまとめ

- 資源の増加傾向を妨げないよう、漁獲努力を現状程度におさえる
- 2005年級(2006年に加入)の動向を注意深く見極める必要がある

資源評価は毎年更新されます。